

松谷会長記者会見の概要

日 時：令和2年2月14日（金）15時00分～15時30分

場 所：東京証券取引所ビル地下1階 兜倶楽部

（質疑応答）

記者：

松谷会長にコメントしていただきたい。新型肺炎の影響により、特に中国株関連投信からの資金流出が見られるが、個人投資家の心理や先行き、また新型肺炎の影響をどう受け止められているか伺いたい。

松谷会長：

まず、日本でも多くの方が新型肺炎に感染しているので、深刻な事態だと思う。ただし、世界中の株式市場を見ると、過去にも SARS や MERS といったパンデミック系の事象を何度も経験しているので、今のところ、投資家は比較的冷静に受け止めていると判断している。

記者：

日経平均株価もだいぶ回復しているが、投信の資金流入の先行きについても、個人投資家がある程度冷静になって押し目買いをするのではないかと。今後、どういう展開が考えられるか。

松谷会長：

もう既にインデックスファンドで押し目買いをされている方もおられると思う。ただし、投資信託の資金の出し手とその経路については、大きな地殻変動を起こし始めている。例えば、バランス型ファンドへの資金流入額（2,763億円）のうち、約1,100億円はDBからの移管である。従って、金融機関を通じて買ったというよりは、年金がDBからDCに変わるときに、キャッシュになってバランス型ファンドを購入したという形なので、大きく購入主体が変わり始めていると思う。

アジア株関連投信については多少売りがあると思うが、投資家は比較的冷静に受け止めていると思う。逆張りの個人投資家がインデックスファンドを買う傾向は強いと思っている。

記者：

地殻変動の意味についてももう少し詳細を伺いたい。

松谷会長：

昨年は公募株式投信（除くETF）が1997年以来初めて資金流出（約5,000億円）となったのだが、大半の金融資産を持っている高齢者の方々が75歳に差し掛かり、その方々が

リスクウェイトを落とし始めているので仕方がないと思う。一方、1月の資金流入は一定程度あったが、そのほとんどはETFであり、テーマ型ファンドや国内株式のアクティブ型は売られてインデックスファンドが買われている。また、国内株式投信が売られて外国株式投信が買われており、投資資金が日本の資産だけではなく海外資産に向かっている。

そして、大きな資金流入の要因はバランス型ファンドが非常に増えたということだが、資産形成に向けて、若年層や現役層の方々が購入したためである。代表例は、年金がDBから企業型DCへ移管される時に約1,100億円流入したことであり、バランス型ファンドに入っている。そういった形で、DCで資産形成するために現役層がバランス型を購入した。テーマ型ファンドや株式アクティブ型を購入する高齢者の方々は減っている。公募投信全体から資金が流出しているという感じを受けているが、地殻変動が起き始めている。

記者：

新型コロナウイルスの感染がアジアに広がるのではないかと、日本にも拡大するのではないかと見られている。国内の方にもそういった感覚があり、拍車をかけているのではないかと。

アメリカや欧州の株価だけではなく、世界的に株価が右肩上がりになっている中で、日本だけが出遅れており、もみ合っている。バランス型ファンドで世界中に投資するという地殻変動の話があったが、新型コロナウイルスの影響が後押しするのではないかと。

松谷会長：

新型コロナウイルスの影響だが、先程質問があったとき、それほど市況が上下しておらず、投資資金の特徴が、これから20年、30年貯めていくためのものになり始めていると申し上げた。

目先では、新型コロナウイルスの問題は大変な事態であると認識しており、早く終息して欲しいと思っているが、その影響で投資家が海外に投資するようになるということではないと思う。市況にはあまり影響していないと思われる。

以上